



あうるすぽっと  
OWLSHOT THEATER

# ダンスカフェサロン in あうるすぽっと 2018

前期・後期 全6回・各回120分(休憩有)・開場は開講の30分前

## 「コンテンポラリーダンスの可能性」後期

2018年のダンスカフェサロンは、急速に発展を続けているアジアのダンスシーンに注目しながら、世界で同時進行的に発生している新たなコンテンポラリーダンスの可能性を紹介するセミナーです。最終回のシンポジウムでは、国内外におけるダンスシーンの歴史を振り返りながら、ダンスの発展と可能性を次世代へと伝えていきます。

### ダンスカフェサロン in あうるすぽっと

国内および海外のダンス・パフォーマンスなどの動向を分析、研究する方々を講師として招き、「あうるすぽっと」と「ダンスカフェ」によって共同開催しています。また同時代を生きるジャーナリスト、評論家、劇場関係者、舞踊家との対話を通じて「コンテンポラリーダンスの可能性」について考えていく場でありたいと思っています。

**4** 11月17日(土)19:00  
「障害のあるアーティストによる  
ダンスの現在と未来 - 英国の事情を中心に」  
講師：吉野 さつき  
ゲスト：南村 千里(デフ・ダンスアーティスト)

**5** 12月15日(土)19:00  
「パリを舞台に、この30年の動きから伊藤 郁女の登場まで」  
《第1部》フランスのコンテンポラリー・ダンスとバニョレ国際振付コンクール  
《第2部》DVD上映：パリを拠点に活動する日本人振付家・ダンサー 伊藤 郁女(いとう かおり)作品  
講師：佳手 美美(舞踊評論家)

**6** 2019年1月6日(日)18:30  
シンポジウム  
「コンテンポラリーダンスの可能性」  
基調講演：山野 博大(舞踊評論家)  
ゲストトーク：山崎 広太(N.Y在住現代舞踊家)  
パネルディスカッション：  
「21世紀のコンテンポラリーダンスと劇場の関係」(60分)

会場：あうるすぽっと3階 会議室B  
料金：500円 定員80名 / 予約優先制  
企画：ダンスカフェ  
<https://www.danceartcenter21.com/>

お問合せ：ダンスカフェ  
tel.fax.03-3975-6405  
dancecafe-21@krb.biglobe.ne.jp  
ご予約：あうるすぽっとホームページ  
<https://www.owlspot.jp/>  
※ワークショップ・レクチャー覧 →  
よりお申し込み下さい。



# Dance

※講師、ゲスト、日時等、一部変更する場合がございます。  
※後期詳細は裏面を御覧ください。※敬称略

### ※前期タイトル

- 8月28日(火)19:00  
「インド舞踊～世界に向けて、小野雅子が語る～」  
講師：石井 達朗(舞踊評論家)  
ゲスト：小野 雅子(インド舞踊家 / オディシャ州在住)
- 9月29日(土)19:00  
「ケイタケイの伝統と前衛 ～モダンとポストモダン～」  
講師：西田 留美可(舞踊評論家)  
ゲスト：ケイ タケイ(ケイ タケイ's ムービングアース・オリエンツフィア主宰)
- 10月20日(土)19:00  
「海外ダンス経験をコンテンポラリーダンスの活性化にいかす」  
講師：稲田 奈緒美(舞踊評論家)  
ゲスト：渡辺 レイ(元NDTダンサー / Opto(オプト)主宰)

東京メトロ有楽町線「東池袋駅」6・7番出口より直結  
JR他「池袋駅」東口よりグリーン大通り直進徒歩10分  
都電荒川線「東池袋四丁目」より徒歩2分  
〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル3F  
TEL.03-5391-0751  
<https://www.owlspot.jp>





2016 Sea Of Noises photo By Naoya Ikegami

講師：吉野 さつき(よしの さつき)

愛知大学文学部メディア芸術専攻教授。英国シティ大学大学院でアート・マネジメントを学ぶ。公共ホール勤務、英国での研修(文化庁派遣芸術家在外研修員)後、コーディネーターとして教育、福祉などの場で芸術を用いた活動に携わる。

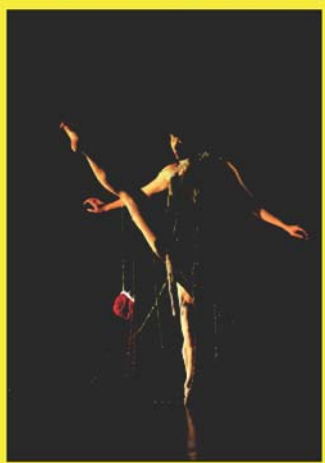


Photo by Yoichi Tsukada

講師 佳手 芙美(かて ふみ)

舞踊批評家。フランスパリ第8大学演劇・映画博士課程DEA修了。「ダンスの現場から」主宰。「ピナ・バウシュ来日記念 ピナ、ピナを語る」アーティスト・トーク、写真展、ワークショップ、「マース・カニングハム」、「ウィリアム・フォーサイス」来日記念イベントを主催・実施する。ダンス批評誌「DANCEART」、雑誌ユイカ「ピナ・バウシュの世界」「ヴァッタル舞踊団主要作品解題」、季刊インターコミュニケーション「ダンスフロンティア身体テクノロジー」、雑誌 10+1「コレグラファーと身体 カニングハム、フォーサイスそしてピナ」ほか。

## {第4回} 11月17日(土) 19:00 開講 「障害のあるアーティストによるダンスの現在と未来 —英国の事情を中心に」

講師：吉野 さつき

ゲスト：南村 千里(デフ・ダンスアーティスト)

南村千里は、ロンドンを拠点に国際的に活動しているダンサー・振付家です。ヴィジュアルアートにも造詣が深く、近年では英国テート美術館などで英国手話による芸術解説者としても活動しています。きこえない世界に生きる彼女は、独自に開発した「視覚的楽譜」を用い、デジタルアーティストなどと共同しながら領域横断的な作品づくりにも意欲的に取り組んでいます。彼女がロンドンを活動拠点に選んだ理由や英国での障害のあるアーティストの創作環境、「視覚的音/音楽」をテーマとする作品づくりなどについて語っていただきます。



Photo by Yutichiro Noda

南村千里(みなみむら ちさと)

生後7ヶ月目に聴力を失い、きこえない世界へ。女子美術大学日本画学士号習得。ロンドンのラバン校卒業後、横浜国立大学大学院修士課程修了。2003年より2006年末まで、英国のCandoco Dance Companyのダンスアーティストとして活動。現在、フリーランスアーティストとして、ロンドンを拠点にアジア、アフリカ、欧米など20カ国40都市以上で公演、ワークショップを実施している。ロンドンパラリンピック開会式2012に、パフォーマンス者として出演。

<http://chisatominamura.com/jp/>

## {第5回} 12月15日(土) 19:00 開講 「パリを舞台にこの30年の動きから伊藤 郁女の登場まで」

講師：佳手 芙美

《第1部》フランスのコンテンポラリー・ダンスとバニョレ国際振付コンクール

《第2部》DVD上映：パリを拠点に活動する日本人振付家・ダンサー伊藤郁女\*作品

1975年、パリ・オペラ座にカロリン・カーリソンのGRTOP(パリ・オペラ座演劇研究グループ)が結成され、クラシックバレエの殿堂、オペラ座で素足のダンサーのソロが発表された。それだけでも画期的な出来事だった。こうしたカロリン・カーリソンの存在、アメリカのポストモダンダンスやマース・カニングハム、日本の舞踏の影響など、フランスのコンテンポラリー・ダンスは、この時期に胎動していく。そこにもうひとつ注目すべきは、「バニョレ国際振付コンクール」の存在がある。1976年には、ジャン＝クロード・ガロッタが、マギー・マランが1978年に振付賞を受賞している。1981年、ジャック・ラングの文化大臣就任とともに、フランスのダンスは、文化政策のもとにダンス・コンテンポレンヌ「ヌーヴェル・ダンス」として花開いていく。



Photo by YASKEI

\*伊藤郁女(いとう かおり)

5歳よりクラシックバレエを始める。立教大学教育学科を卒業。20歳にNY州立大学パーチェスカレッジへ留学。2002年横浜ダンスコレクションで「財団法人横浜市文化振興財団賞」受賞。2003年フランス人振付家F・ドックフレ『Iris』でソロパートを踊る。2004年文化庁新進芸術家研修員としてA・エイリーダンスシアターに留学。その後、振付家A・フレリジョカージュ、シディー・R・シェルカウイ、A・プラテルの作品に参加。仏、スイスを拠点に活動する。2013年カンパニー les ballets C de la B プロデュース『Asobu』を創作。2015年に自らのカンパニーを立ち上げ、2018年の日本公演ではフランスマルセイユ初演(2015)の『私は言葉を信じないので踊る』を発表。この作品は、世界各国で100回以上の公演を重ねてきた。2017年『私を燃やして』2018年『ロボット、私の永遠の愛』を発表。2015年SADOより新人優秀振付賞、フランス政府より芸術文化勲章シュヴァリエ賞を受賞。フランスでは、クレティユ芸術劇場、Le Centquatre-Parisのアソシエイト・アーティストとして活動している。

## {第6回} 2019年1月6日(日) 18:30 開講 シンポジウム「コンテンポラリーダンスの可能性」

① 基調講演「我が国の現代舞踊の未来、その展望」山野 博大(舞踊評論家)

② 「日本人ダンサー、ニューヨーク滞在の活動報告」山崎 広太(N.Y在住現代舞踊家)

パネルディスカッション：「21世紀のコンテンポラリーダンスと劇場の関係」(60分)

パネリスト：山野 博大(やまの はくだい) 山崎 広太(やまざき こうた)

岸 正人(きしまさと)(豊島区立芸術文化劇場開設準備室/池袋駅東口に2019年秋開館予定) \*ほか、後日発表

2020年を迎えるに当たって社会はとどまることなく変化しています。20世紀後半登場したコンテンポラリーダンスは、次代に我々の眼を輝かせてくれるのでしょうか。さまざまな立場からパネリストを迎えてこれまでの意義、そして次世代に向けて問題提起したいと思います。